

優秀賞

思いをつないで

北海道 伊達市立伊達中学校二年 小室 伶

ブナが生息する最北の地、黒松内。そこには「ぶなの森自然学校」がある。この場所では体験した「40キロウォーク」は、私の小さな思い出のカケラの中でも一際輝いている。

小五の夏、私は20日間の自然体験に参加していた。その日の行事は、太平洋の静狩浜から日本海の寿都湾までの「40キロウォーク」だった。空は灰色がかった雲に覆われている感じでちょっぴり肌寒い。私はそんな寒さを感じない程弾けていて、スタートを切った時から勢いよく歩き出した。5キロも歩いていないうちに先頭グループとの距離が広がっていき、汗が滲み出て来た。付き添いだったオスタッフが先頭グループに付く為にKスタッフと入れ変わる時、「ガンバ、れい！」ってチョークで度々書くならな。」

と言いつつ、すぐに姿が小さくなっていった。足が遊び始め全身に鋭い痛みを感じ、足を引き摺りながらふと下を見た瞬間、アスファルトに書かれた白いデカデカとした文字が目に見え込んで来た。

「ガンバ、れい！」
思わず顔が綻んだ。心と体の二つの重みがスッと抜けていく様な気がした。と、同時に心がジワジワと温かくなるのを感じた。私の歩んで行く道には幾度も応援のメッセージが記されていた。姿は見えないけれど、メッセージにはその人の優しさや思いが込められ、見守られている様なそんな温かさを感じた。その時、私の頭に閃きがよぎった。私は後から来る友達に宛て、コンクリ

ートにメッセージを書いた。自分がスタートから貫った思いで力が湧いて来た様に、少しでも友達の力になれたら良いなあと。静狩浜を勢いよく後にしてからどれ位たった頃だろう。私は足に何度か鋭い痛みを感じ、涙が込み上げて来た。その涙を必死に堪えようと見開いた目に、ゴールの海岸の景色が映った。私は重い身体を引き摺る様にしながらも、アスファルトのメッセージの支えのお陰で、ゴールの海岸に辿り着いた。10時間6分、私は40キロを完歩する事ができた。

私の好きな本で、葉祥明さんの『ゴンドールの優しい光』の中に「君が嬉しかった事を同じ様に手をつないだ人にしてあげよう。皆がそうやって手をつないでいけば世界中から悲しみや苦しみはずっと少なくなるんだよ。」という言葉がある。今回の40キロウォークはこの本の様にスタッフの思いが私に伝わり友達へとつながっていく。まるで、手と手をつないでいく様に、温かな思いが見えない誰かを温めてくれる。私も、誰かが私にくれた言葉や温かさを同じ様に次の人にその思いをつなぐことができると人になりたいと思う。

今はもう、「40キロウォーク」での体の痛みや疲れは忘れてしまったけれど、スタッフや仲間達がくれたチョークのメッセージは、私にエールを送り続けてくれている。